

巻 末 資 料

- 1 こどもの声を聴くワークショップ実施結果報告書・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- 2 明石こどもセンター 一時保護所 こどもの意見を聴く会実施報告書・・・・・・・・P 10

こどもの声を聴くワークショップ実施結果報告書

実施日：2024年（令和6年）10月27日（日）9：30～12：00

実施場所：明石こどもセンター大会議室

実施対象：明石市内の児童養護施設に入所中の児童等

対象年代：小学校6年生～高校3年生・社会人

参加人数：9名

進行役：明石市市民とつながる課職員2名

社会的養護経験者 門脇 大 氏

神戸女子短期大学教授 畠山 由佳子 氏

事務局：明石こどもセンター

1 ワークショップの実施方法

今の生活や将来について「いまの暮らし、これからの暮らし」と題し、ワールドカフェ方式（※）でワークショップを実施しました。ファシリテーションの専門職である市民とつながる課職員と、社会的養護に見識の深い有識者及び社会的養護経験者を中心に進行しました。

会場内は椅子・テーブルを撤去し、床にレジャーシートを敷き、座布団を配置して会議室の無機質さを和らげる工夫をしました。また、カフェコーナーを設け、自由に食べられるお菓子や飲料を用意し、ワークショップ冒頭にはアイスブレイクの時間を設けるなど、こどもにとって意見の出しやすい進行や雰囲気作りに留意しました。

また、事前に児童養護施設から参加児童につき、配慮事項を確認するとともに、当日は、明石こどもセンターの保健師も参加し、休憩室を設けるなど、参加児童に心身の不調が生じた場合の対策等も十分に行った上で実施しました。

ワールドカフェ方式…カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたグループで自由な対話を行い、他のグループとメンバーをシャッフルして対話続けることにより、参加者全員の意見や知識を共有する対話手法の一つ。

2 ワークショップの実施結果

実施当日は、全体的に和やかな雰囲気で行進し、特に不調を訴える児童もいませんでした。参加児童から積極的な発言もあり、こどもの率直な声を聴くよい機会になりました。

こどもたちから寄せられた主な意見の概要を、項目ごとに分類して記載します。

- ① 現状の暮らしの良いこと悪いこと、その改善点について
- ・門限が早い。
 - ・ホームごとのルールを揃えてほしい。
 - ・スマートフォンやタブレットの制限が厳しい。勉強に使うこともあるのに。
 - ・友達の家泊まりに行きたい。相手の保護者の許可も得ているのに。
 - ・小遣いが少ない。高校生は15,000円にしてほしい。
 - ・好みの服を選んで買うことができる。
 - ・服にかけられるお金が少ない。シーズン5,000円では足りない。
 - ・食事がおいしい。肉料理は特においしい。好きなメニューがよく出る。
 - ・甘い味付けの料理が多い。献立の工夫をしてほしい。
 - ・趣味やスポーツなど（習い事）が出来る。
- ② こんなサポート、サービスがほしい
- ・アルバイトの許可を得るのを、市にサポートしてほしい。
 - ・退所後支援金がほしい。
 - ・小遣いの管理が自分ではできない。
 - ・就職したら（または施設から出たら）放っておいてほしい。
- ③ みんなの思いを聴かせて（こどもの権利擁護について）
- ・同じ経験をした人（おとな）に話を聞いてほしい。
 - ・同じように施設で生活している子と話をしてみたい。
 - ・「後で話を聞くよ」と言ってくれるが、そのまま忘れていることも…。
 - ・友達が習い事の道中によく話を聞いてくれる。
- ④ 感想
- ・普段言えないことが言えて良かった。楽しかった。
 - ・できれば、みんなからの共感が多かった意見は改善してほしい。
 - ・同じ経験をしてきた子と話して、少しでも不安を和らげてリラックスしたい。
 - ・この話し合いが役に立つといいなと思う。

3 ワークショップのフィードバック

令和7年2月19日に、市内児童養護施設において、ワークショップのフィードバックを実施しました。ワークショップに参加した児童のうち7名が参加し、明石こどもセンター及び明石市市民とつながる課職員から、ワークショップで出た意見をどのように明石市社会的養育推進計画に活かしていくかなどについて説明をしました。

4 進行役からのメッセージ

今回のワークショップでは、同じ施設の子どもたちが参加者だったことで、既存の人間関係を基盤に率直な意見を言い合える場となりました。開催側の工夫として、ワールドカフェ方式を採用したことにより、リラックスした雰囲気の中で活発な意見交換が行われました。

個人的に印象に残った意見として、「施設出身を理由に明示しても学校がアルバイトを許可してくれない」というものがありました。これは一個人の不平不満にとどまらない具体的な課題であり、私たちは真摯に受け止めて改善に向けて行動していく必要があると感じました。また、「同じ経験（虐待や施設出身という背景）をした人でないと話せないことがある」という発言から、単に第三者に意見を話す機会を設けるだけでは、本質的な意見の聴取は難しいということも分かりました。一方で、「〇〇先生は最高！」という意見に多くの子どもたちが賛同していた点から、衣食住の安全確保だけでなく、身近に信頼できる人がいることの重要性が浮き彫りとなり、そのような人材を社会で育成していく仕組みの必要性を感じました。

フィードバックについては、意見を聞くだけでなく、その後の具体的な行動を示すことが重要です。例えば、「この意見は〇〇部署に報告しており、△△の方向で検討している」といった形で、意見の取り扱い状況を明確に伝えることが必要です。今後は、このような質の高いワークショップを定期的に行う体制を整えていくことを期待します。「明石ではこんなことをやっている！」と、他の自治体のモデルケースとなるような特色ある取り組みに発展することを願っています。

社会的養護経験者 門脇 大

子どもの権利条約において、日本では「子どもの意見」と訳されている言葉は原文では子どもの「view」です。英語の view とは窓から見える景色のようなもので、自分にかかわる様々な物事が 1 人ひとりの心にどのように映っているのかを意味しています。それは意見のようにしっかりと形になっていないかもしれません。またその時々で変化するのも当たり前です。まだ言葉で表せないぐちゃぐちゃな気持ちも、大人から見れば「わがまま」に見えるような思いも、子どもならではの偏った解釈もすべて「view」です。子どもがそれらすべてを表現することの権利、そして実現可能かどうかに関係なく、大人に重きを置いて受け止められる権利こそが子どもの権利条約の第 12 条の内容です。もちろん、表現することは無理強いされることではなく、表現をしないという権利も同じように尊重されるべきです。

今回の取り組みは、明石市内の児童養護施設で生活しているみんなから、日ごろの生活や将来のことをどんな風を感じているのかを教えてもらうために、こどもセンターをはじめとしたいろんな立場の大人たちが知恵を絞って企画した初めての試みでした。あの場にいたみんなもまだまだ言い足りないことや言えなかったことがあっただろうし、あの場にいなかった人達の思いは聴くことができませんでした。だからこれはこの後まだまだ続く試みの始めの第1歩です。

将来のバトンを受け継ぐこどもたちにとって最も良いことを考えるのは、周りの大人の責任、そして、特にこどものために仕事する立場の大人にとっては最も大きな使命です。だからこそみんなの時間をもらって、みんなが日頃の生活をどう思っているのか、少し先の将来をどう感じているのかを赤裸々に教えてもらうことは、あの日集まった大人にとってはとても貴重なことでした。

大人の事情で「できません」というのは結局、こどもにとっては大人の「わがまま」でしかありません。みんなだって「こんなこと言っても無理やろな」と思いながらも、話してくれたこともたくさんあったと思います。だからこそ、これから私たち大人はちゃんとこどものみんなに向き合って、色々な大人の事情もできる限りみんなにわかってもらえるように説明して、より良くできることは何かをこどものみんなと一緒に考えていかななくてはなりません。「言ってもしょうがないから」とみんなが自分たちの思いを周りの大人に伝えることをあきらめてしまうことがないように、これからもしっかりみんなの声を聴かせてもらえるような様々な試みを、工夫を凝らしながら続けていき、そこで出たみんなの view をしっかり受け止めていこうと思っています。そんな明石市の試みに私も大人の一人として、これからも関わり続けられたらと願っています。

神戸女子短期大学教授 畠山 由佳子

写真1：会場の様子（設営中）



写真2：カフェコーナー



写真3：グラフィックレコード

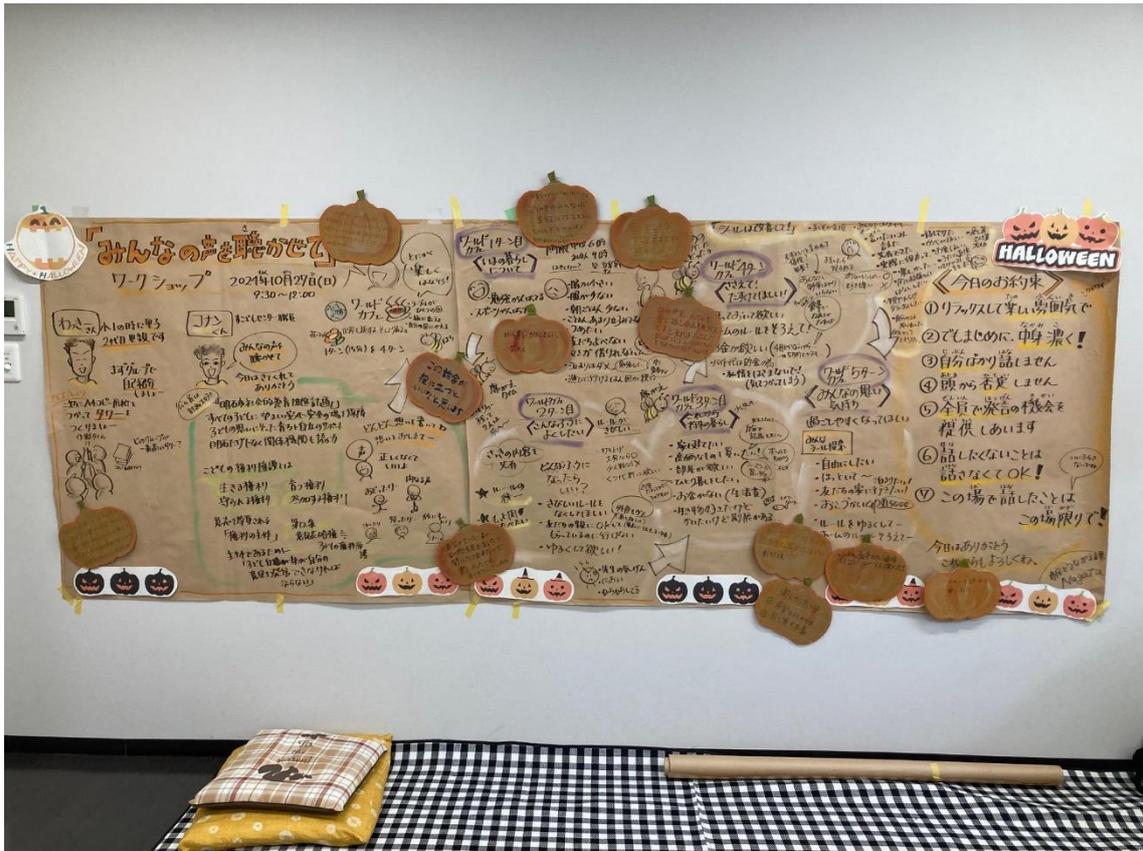


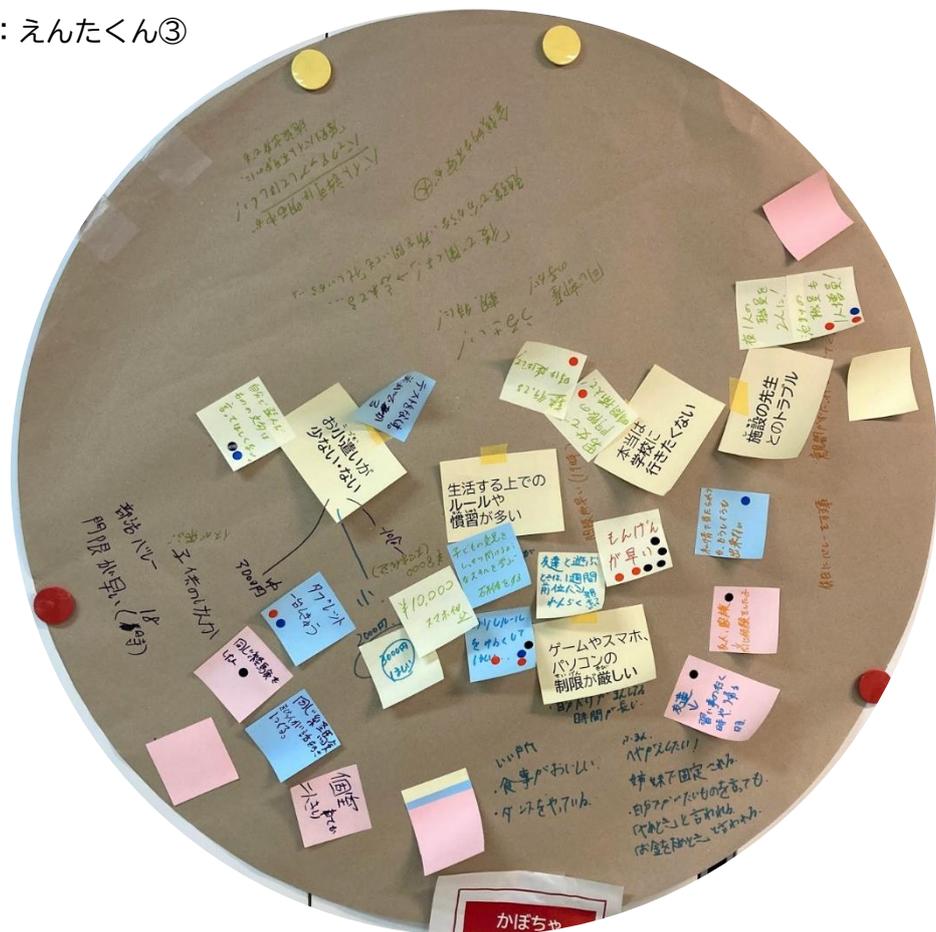
写真4：えんたくん①



写真5：えんたくん②



写真6：えんたくん③



こどもの声を聴くワークショップ えんたくん・付箋の声

	シール投票	かぼちゃ	ゴースト	こうもり	
【黄】 こんな風に 良くしたい	・門限が早い(6) ・お小遣い15000円欲しい(4) ・ルールが厳しい(4) ・泊りの職員も一人増員(3) ・自分の選んだものは文句言ってほしくない(2) ・門限を塾いているときは延ばして(1) ・男女で門限の時間を揃えて(1) ・22時から23時ぐらい(1) ・中学生:せめて6時から8時にしてほしい(1) ・服のお金が少ない、1シーズン5000円、少ないあげて(1) ・友だちの家に泊まりに行きたい(相手がOKといっているのに)(1) ・ルールをゆるい方に統一してほしい(1) ・クラスの打ち上げとかは行かせて(1)	門限が早い(6)	22時から23時ぐらいがいい(1)		
		門限	門限を塾いているときは延ばして(1)	中学生:せめて6時から8時にしてほしい(1)	
			男女で門限の時間を揃えて(1)		
		お金	自分の選んだものは文句言ってほしくない(2)	お小遣い15000円欲しい(4)	服のお金が少ない、1シーズン5000円、少ないあげて(1)
			3000円欲しい	好みの服を着ることができる	靴代は別に欲しい
			10000円スマホ代こみ	小遣いがすくない、ない	好みの服を着ることができる
			小遣いがすくない、ない		
		職員	泊りの職員も一人増員(3)	施設の先生とのトラブル	施設の先生とのトラブル
			夜、一人の職員を二人に		職員は長くしてほしい
			施設の先生とのトラブル		
		食事		食事がおいしくない	食事がおいしい
				シイタケとキャベツがいらぬい	もっと肉が食べたい
				甘すぎる味付け	外食にもっと行きたい
				食事がおいしい	味付けを工夫して、甘いが多い
		ルール	友だちと遊ぶときは1週間前に連絡	ルールが厳しい(4)	友だちの家に泊まりに行きたい、相手がOKといっているのに(1)
			生活する上でのルール慣習が多い	趣味などスポーツなど好きなことができる	ルールをゆるい方に統一してほしい(1)
			本当は学校に行きたくない	毎日学校に通うことができる	クラスの打ち上げとかは行かせて(1)
			ゲームやスマホ、パソコンの制限が厳しい	ベッドが欲しい	ルールはゆるいホームに合わせて
		生活する上でのルール慣習が多い	ゲームやスマホ、パソコンが自由に使うことができる		
			友だちの家に遊びに行くことができる		
			ゲームを、ずっとやりすぎないならルールを無くしてほしい		
			勉強するならタブレットかスマホは許してほしい		
【青】 ささえて！ 助けてほしい！	・友だちの家に泊まりに行かせてほしい(9) ・お小遣いを15000円にして欲しい(9) ・施設を出てからは好きにしてほしい(4) ・もう少しルールをゆるくしてほしい(4) ・ほっといてほしい(就職したら)(2) ・ホームのルールをそろえてほしい(2) ・タブレット1台支給(2) ・テニスの大きな壁(壁打ちよう)(1) ・私情であたられてもどうしようもできない(1)	タブレット1台支給(2)	お小遣いを15000円にして欲しい(9)	バイトがしたい	
		お金		テニスの大きな壁(壁打ちよう)(1)	高校生にバイトをさせてあげて欲しい
					退所後支援金が欲しい
					買いたいものを買いたいだけ買わせてほしい
		ルール	もう少しルールをゆるくしてほしい(4)	友だちの家に泊まりに行かせてほしい(9)	ほっといてほしい(就職したら)(4)
				施設を出てからは好きにしてほしい(4)	ホームのルールをそろえてほしい(4)
					献立を工夫してほしい(特にキャベツ)
		人	私情であたられてもどうしようもできない(1)		私情で機嫌悪くしないでほしい
	同じ経験をした人が話を聞きに来る		こどもと施設職員とセンター職員で話し合う		
勉強	テストをなくす、差が出るから				
その他	こどもの意見をしっかり聞けるようなスキルをまなぶ、研修				
【ピンク】 みんなの思い、 気持ち聞かせて	・〇〇〇〇先生は友達(8) ・同じ経験をした人(1) ・友だち→習い事に行く時や帰る時(1) ・友人、家族、同じ経験をした子(1)	同じ経験をした人(1)	〇〇〇〇先生は友達(8)	職員も子供も過ごしやすくなったらいいと思います	
		人	友だち→習い事に行く時や帰る時(1)	担当の先生・友達	思っていることを共有できてよかった
			友人、家族、同じ経験をした子(1)		より良い暮らしになるための案や意見が出た
		物	個室、車とか、二人きり		この話し合いが日常に反映されるといいと思います

こどもの声を聴くワークショップ えんたくん・付箋の声

シール投票		かぼちゃ	ゴースト	こうもり	
えんたくん	・スマホ、タブレットの時間制限嫌！(2) ・外食が少ない(2) ・友だちの家に泊まれない(1) ・施設内にテニスコート欲しい、壁(1) ・ひとりになれる時間も欲しい(1) ・ピアノ(毎回借りにくい、大変、防音の部屋が欲しい)(1)	門限が早い(18時)	9時早すぎ、電車の都合あるし...	帰宅時間中学生18時、社会人21時	
		門限が早い(19時)	ルールが厳しい	塾も自習室もあかん、陸上した後でも...	
			練習時間⇔門限さる	泊りは絶対無理、陸上遠征ならいける	
				友だちの家に泊まれない(1)	
				スマホ、タブレットの時間制限嫌！(2)	
				あしながさんの使い方がホームによって違う	
				他人の家に入ったらダメ	
				少人数で外出はダメと言われた	
				基本 物が借りれない、マンガとかも借りれない	
				ホーム別にルールが違う、ゆるい方に合わせて	
				遊びにできない(中学生)	
				友だち呼べるけど...ルール気にしない	
				派手すぎるのはダメ、肌出し、透けるのはダメ、	
				モフモフした生き物が飼えない	
				10時に返さないとダメ、携帯やタブレットも制限される、勉強でわからない事なのに	
			部活バレー	施設内にテニスコート欲しい、壁(1)	行く塾はえらべる、でも安いところ
			休日にバレーをすること	中庭でバスケ、リングがある	陸上がんぼっている
			ダンスをやっている	ソフトテニス(部活)の試合が楽しい、県大会出場、近畿大会	勉強楽しい
				陸上400メートルオリンピック、指導者、2年くらいで強化選手になりたい	陸上がんぼってる、400メートル県でも早いぞ
				勉強楽しい、全部	陸上に関しては買ってもらえる
					学歴を付けたい
					大学進学、数学物理を勉強したい
					勉強を頑張っている、英語を頑張っている
			食事がおいしい	外食が少ない(2)	味付けが甘い、小さい子向け、ローテーション、キャベツとパンだけ
				結構好きなメニューがでてくる	朝、いっぱい食べたい⇒言いに行っても無駄
				友だちと外食行けない	リクエストしても一回だけですぐ戻る
				シフォンケーキ、お菓子作り、材料費だしてくれる	食事をせかされる、冷たい、しんどいの
				外食少ない、もっといきたい	朝食の量が少ない
					ご飯に行くのは2食続けてはだめ
					肉系はハズレない
					3カ月に1回しか外食できない
			バイト許可は明石市がバックアップしてほしい	携帯 朝から夜10時ぐらいいらない	着たい服が買えない
			原則バイトは不可なのに、施設出身でも	ケータイ代高い	好きな習い事をさせてほしい
			金銭的な不安が大	服代だしてくれる(予算有)	お小遣いのやりくりが自分でできない
			お金をためるときといわれる	バツバツの服	高い買い物したい
					着たい服が着れない
					おしゃれなものが買えない
					靴or服
					お給料もらったら派手に使ってしまいそう
					車が欲しい、スーパーカーが欲しい
					加古川に家を建てたい
					物欲が抑えられるかな
					服は上限がある、私服は着たいが買わない
					インフレ、値段が高い
					夏服、冬服の値段が決まってる、1シーズンに2セット
			お金の使い方、自分で決めたい		
			バイトしたかった、バイトしたい、バイトさせてほしい		
	「後で聞くよ」→わすれている		ベテランがいなくなった		
	勉強でわからないところを聞いても「忙しい」		ねちねちしてー		
	自分で書いたものを言っても「やめとき」といわれる		ほっバツンツンするな		
	意見聞かずに押し付けてくる		頭が固い、髪型とか時代遅れ、		
			機嫌によってちがう		
			臭いどうにかして		
			頭が固い		
	同じ部屋の子がうるさい、朝特に	ひとりになれる時間も欲しい(1)			
	部屋替えしたい				
	姉妹で固定される				
			親と会える機会がもっとほしい		
			親に連絡を取る頻度が長い		
			親に会わない間に話すことが忘れてしまう		
	自分だけが我慢している、時間が長い	ピアノ(毎回借りにくい、大変、防音の部屋が欲しい)(1)	ゴキブリ出たらどうしよう		
			ジャージはやめて、パジャマみたいやから		
	こどものけんか、いすが飛ぶ	ゲームのBGMを弾けるようになる、アンダンテール	独り暮らししたいけど怖い、ホームに住んでいたから		
		花火大会とか	就職したら、働けるかな、起きれるかな		

明石こどもセンター 一時保護所 こどもの意見を聴く会実施結果報告書

実施日：2024年(令和6年)11月19日(火) 17:00~18:00

実施場所：明石こどもセンター 一時保護所フリールーム

実施対象：5歳~中学校1年生

参加人数：8名

進行役：神戸女子短期大学教授 畠山 由佳子 氏

Giving Tree ピアカウンセラー 畑山 麗衣 氏 (社会的養護経験者)

事務局：明石こどもセンター

1 こどもの声を聴く会の実施目的

明石こどもセンターの一時保護所で生活をしている子どもたちに、日常生活や自分の家族、将来のことに對して、満足していることや不満に思うこと、また不安に思っていること等を聴き取り、明石市社会的養育推進計画や(仮称)明石市一時保護施設の整備及び運営に関する基準を定める条例を作成していくあたり、子どもから聞いた声をそれらの検討に反映させることを目的として実施しました。

2 実施方法

実際に生活をしている一時保護所のフリースペースにおいて、社会的養護に見識の深い有識者及び社会的養護経験者を中心に進行しました。

フリースペースは畳敷きで、できる限りリラックスできる雰囲気づくりに努めました。その中で、畳の上に模造紙を置き、子どもたちが意見を言いやすいきかけとなるような単語等を描いたイラストを設置しました。子どもたちは、イラストを参考にしながら、自らの意見を模造紙に直接書く、付箋に書いたものを貼ることで表現してもらいました。また、字が書けない小さい子どもたちの声は進行役等がしっかりと聴き取るよう心がけました。

3 ワークショップで聴き取った子どもたちの声

【ごはん】

- ・おいしい
- ・ちょっと苦手もあるけどおいしい
- ・おなかいっぱい食べられる

【ねること】

- ・よく寝れる

【日課・遊び】

- ・TIKTOKしたい
- ・ボードゲームを増やして欲しい
- ・ボールがぼろい→使いやすいけど
- ・本の種類を増やして欲しい
- ・卓球のラケットがとても使いづらい
- ・外の公園に行きたい
- ・ギターが弾けるようになった
- ・予算がない
- ・本がたくさんある
- ・卓球台がある
- ・平日に外に出たい
- ・アイロンビーズ

【学習や通学】

- ・学校は楽しいです。でも学校の男子がうざい。
- ・難しくして欲しい

【大切なもの】

- ・以前生活していたところの景色をまたみたい
- ・筆箱
- ・部屋で絵をかきたい！

【きもちや思いを聴いてくれる人がいる】

- ・伝えたところで・・・
- ・叶わんやん・・・
- ・これからどうなるのかな・・・

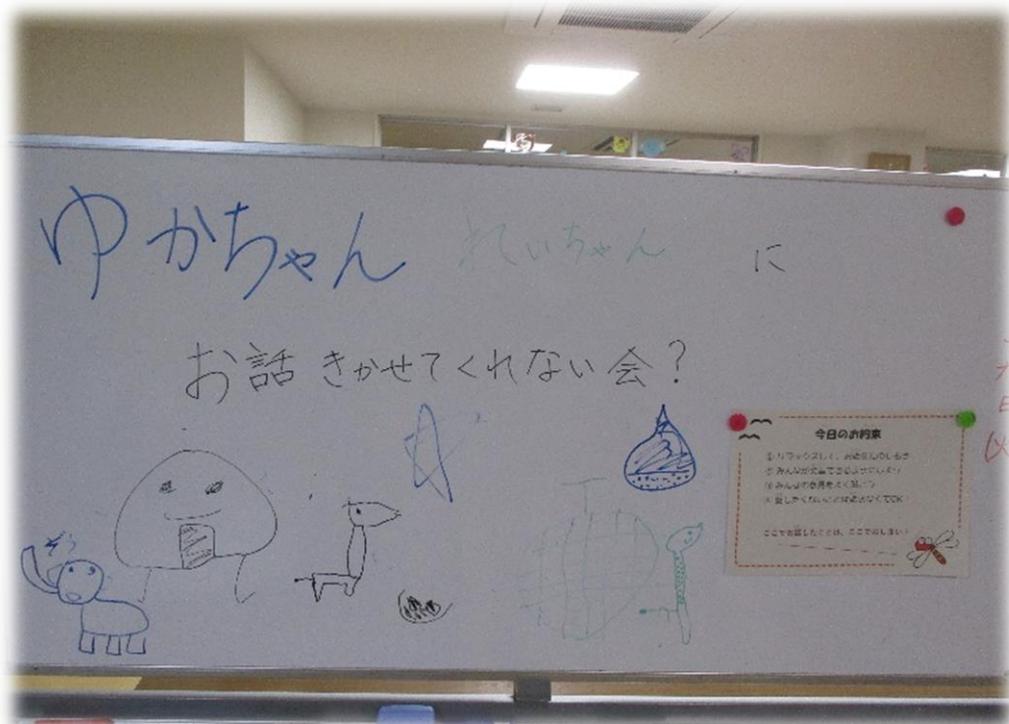
【服について】

- ・替えて欲しいな
- ・イヤだな
- ・不安
- ・良いな！

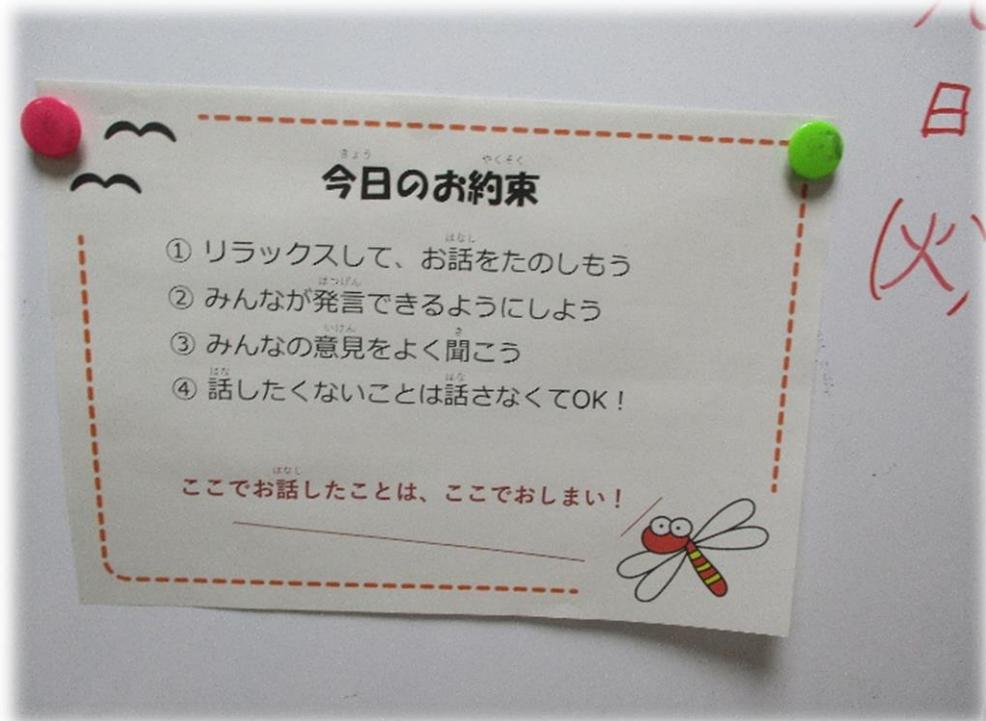
【プライバシー】

- ・退所して欲しい人がいる
- ・知らない子と一緒に楽しい
- ・実はみんながうるさい
- ・学校の方がうるさいです

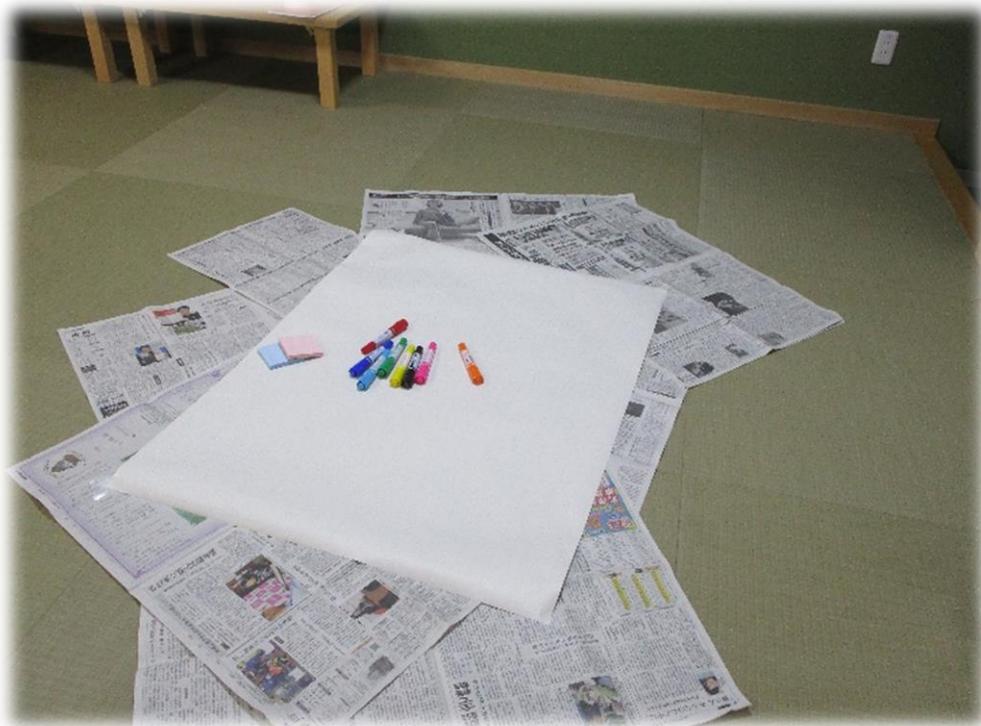
子どもの声を聴く会タイトル



今日のお約束



模造紙に描くために準備したもの



子どもたちが描いた模造紙1



子どもたちが描いた模造紙2



子どもたちが描いた模造紙3



※アンケートの実施結果を掲載予定